

自分が目指す今後の土木技術者について

北九州支部 徳永 勝士*

北九州土木事務所の徳永です。私が県職員として働きはじめて早 3 年が過ぎました。この 3 年間の間に道路、河川の維持修繕業務に携わってきました。21 世紀に入った現代、公共事業は事業を建設すること自体が目的ではなく建設完了後にその施設が円滑に供用され、その機能が有効に発揮されることが求められています。すなわち維持管理の時代ということです。中学生の時にただ漠然と土木技術者になりたい。理由は道路や橋など社会整備にかかる仕事をしたいというのがきっかけで、工業高校に進みました。しかし、実際に土木事務所で働いてみて物事を様々な角度から見る事が出来たと思います。例えば、仕事をする上で一番重要といっても過言ではない地域住民との連携。行政と地域住民が連携して維持管理を協同することができたなら、それは住みやすい街づくりの第 1 歩となるのは間違いありません。また、通常の業務にしてもいかに限られた予算の中で県民のニーズに答えるかといった当初私が目指していた「技術力の高い」土木技術者だけではなく、プラス行政マンとしての土木技術者であるということを学ばせてもらいました。

つい最近までは、多くの公共事業により景気を支えてきたこの国もこれから先土建国家としての繁栄はありません。土木技術職員の必要性が問われている今だからこそ、自己変革能力（現状の自分に満足することなくスキルアップしていく力）を磨くことが大切です。自己変革するとき何を目指せばいいのか？自分の目指すべき技術者像を描き、それに向かって努力する技術者がこれから求められる人材と考えます。これから先技術力を磨くのはもちろんのこと、行政サービスの提供というのとも考えながら業務に励みたいと思います。「土木技術者の中の行政マン」これが私の目指す土木技術者です。

*北九州土木事務所河川砂防課河川維持係